

様式第1号(第7第3項)

入札説明書

この入札説明書は、長野県が発注するその他の契約のうち「業務委託、役務の提供及び物件の借入れに係る一般競争入札実施要領(平成29年3月23日28契検第104号)」(以下「要領」という。)に基づき一般競争入札を行う契約に関し、入札公告のほか、一般競争入札に参加しようとする者(以下「入札参加者」という。)が熟知し、かつ、遵守しなければならない事項について説明したものです。

1 競争入札に付する事項

入札公告等に示すとおりとします。

なお、仕様等のすべてを入札公告等に掲載することができない場合があります。この場合は、入札公告等に示す方法で追加資料を受領又は閲覧してください。

受領、閲覧等は、特に時間の指定がある場合を除き、開庁日*の午前8時30分から午後5時までとします。

※長野県の休日を守る条例(平成元年長野県条例第5号)第1条に規定する県の休日(他の規則により休館日等が定められている場合は、その休館日)(以下「休日」という。)を除く日

2 入札参加者に必要な資格

入札公告に示すとおりとします。

入札参加者は、入札公告に示された参加資格要件を、入札の公告日から落札決定までの間、継続して満たしていなければなりません。

なお、参加資格要件のうち「長野県の調達する製造の請負、物件の買入れその他の契約(建設工事の請負並びに建設工事に係る測量、調査、設計及び工事監理の委託並びに森林整備業務の請負及び委託を除く。)に係る一般競争入札又は指名競争入札に参加する者に必要な資格(平成30年長野県告示第588号)」(以下「入札参加資格」という。)を有しない者は、開札時まで資格の確認を受けることを条件に入札書を提出することができます。ただし、当該者に係る資格審査が開札日時までに終了しないとき、又は資格を有すると認められなかったときは、当該入札書は無効とします。

3 一般競争入札に係る一般的事項

- (1) 入札参加者は、入札公告、仕様書、本説明書、要領及び別添契約書(案)等を熟覧し、承諾の上で入札に参加してください。この場合において、当該発注について疑義がある場合は、入札公告に掲げる予算執行者に説明を求めることができます。ただし、入札書提出後、不知又は不明を理由として異議を申し立てることはできません。
- (2) 使用する言語並びに通貨は、日本語及び日本国通貨に限ります。
- (3) 入札参加者は、入札に関して要した費用は、すべて当該入札参加者が負担してください。
- (4) 入札参加者は、入札に際して知り得た秘密を漏らしてはならないものとします。

4 入札参加申込み

入札参加者は、一般競争入札申込書(要領の様式(以下「要領様式」という。)第5号)等を入札公告に示す日時までに長野県電子入札システム(入札公告において電子入札が指定された場合)又はメール、持参、郵送等により入札公告に示す「本件発注に係る照会先」へ提出してください。

なお、入札参加申込みは、代表者又は入札参加資格申請時に提出された代理人選任届に記載の代理人(以下「届出済代理人」という。)が行うことができます。

5 代理人による入札

入札参加資格を有する代表者又は届出済代理人は、代理人（復代理人を含む。以下同じ。）を定め代理人に入札をさせることができます。

- (1) 入札に関する権限を代理人に委任しようとするときは、委任状（要領様式第7号）を入札開始までに提出しなければなりません。ただし、届出済代理人に委任する場合は、委任状の提出は不要です。
- (2) 前項による委任状は、代表者又は届出済代理人を委任者としてください。
- (3) 入札参加者及びその代理人は、同一入札に係る他の入札参加者の代理人となることができません。

6 入札保証金

入札保証金とは、入札参加者があらかじめ長野県に納付する保証金をいい、落札者が契約を締結しない場合に、納付した保証金は県に帰属します。

- (1) 入札参加者は、入札保証金又は入札保証金に代わる担保を、入札書提出時までに納付してください。ただし、次の各号の一に該当するときは、その納付を免除します。
 - ア 入札参加者が保険会社との間に県を被保険者とする入札保証保険契約を締結したとき。
 - イ 入札参加資格を有する者であり、かつ、その者が契約を締結しないおそれがないと予算執行者が認めたとき。
- (2) 予算執行者は、一般競争入札申込書の提出があったときは、入札保証金の納付免除ができるかどうかの確認をするものとし、納付が必要な入札参加者には、その旨の連絡をします。なお、予算執行者が確認に必要なときは、資料等の提出を求め場合があります。
- (3) (1)の入札保証金に代わる担保の種類及び価額は、別表に掲げるとおりとします。
- (4) (1)の入札保証金の額又は担保の価額は、契約の種別により次の金額の100分の5に相当する金額以上とします。
 - ア 総価契約 見積もった金額（入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額）
 - イ 単価契約 見積もった単価（入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額）に（年間）予定数量を乗じて得た金額
 - ウ 複数単価契約 見積もった各単価（入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額）に（年間）予定数量を乗じて得た金額の合計額
- (5) 入札保証金等の納付方法は次のとおりとします。
 - ア 現金により納付する場合は、予算執行者の発行する納付書により長野県の指定金融機関、指定代理金融機関、又は収納代理金融機関で納付し、領収書を提示してください。
 - イ 入札保証金に代わる担保を提供する場合は、当該証券、手形、小切手又は保証書等を提出してください。

なお、記名証券であるときは、売却承諾書及び委任状を添付してください。

また、手形に金融機関の保証が必要であるときは、当該保証書を添付してください。
 - ウ 保険会社との間に県を被保険者とする入札保証保険契約を締結したときは、当該入札に係る保険証券を入札書提出時までに寄託してください。
- (6) 開札を行い、落札者とならなかったとき又は返還する事由が生じたときは、入札保証金等を還付します。また、落札者が納付した入札保証金等は契約の締結後にこれを還付します。
- (7) 入札参加者は、入札保証金等の還付を受ける場合で、現金により納付を行った場合は、入札保証金還付請求書を提出するものとし、予算執行者は、入札参加者から適法な請求書を受領したときは、その日から14日以内に入札保証金を還付します。
- (8) 落札者が納付した入札保証金等は、その者が契約を結ばないときは、県に帰属するものとしま

す。

また、入札保証金の全部又は一部の納付を免除した場合においては、(4)により算定される金額を満たす最低金額から、既に納付された金額を差し引いた額を徴収するものとします。

(9) 入札保証金には、利子を付しません。

7 入札及び開札

(1) 入札書

入札参加者は、入札書を電子入札又は紙入札のうち、入札公告で指定された提出方法に応じて、作成してください。

ア 入札書の作成方法

入札参加者は、質問回答の内容を熟覧し、特に積算に関わる事項について留意のうえ、次のとおり入札書を作成し提出してください。

入札書を提出する前であれば、入札申込書を提出した者であっても、特に届け出ることなく入札を辞退することができます。なお、入札を辞退した者は、これを理由として以降の入札参加について不利益な扱いを受けるものではありません。

イ 電子入札システムの入札書

長野県電子入札システムにより入札書を作成してください。

ウ 紙入札の入札書（電子入札の特例による場合を含む。）

入札参加者は、長野県公式ホームページ（「長野県電子入札システム」及び「長野県入札情報システム」を含む。以下同じ。）に掲載した各案件の入札書様式をダウンロードし、次の各号に掲げる事項を記載して、入札書を提出してください。

(ア) 日付

(イ) 入札参加者本人の住所、氏名（法人の場合は、その商号又は名称及び代表者の氏名）及び代表者印の押印

(ウ) 5(1)による代理人が入札する場合は、代理人の住所、氏名（法人の場合は、その商号又は名称及び代理人の氏名）及び代理人印の押印

(エ) 電子入札利用者番号

(オ) 電話番号

(カ) 入札額

(キ) 単価

(ク) 合計額（単価契約を除く）

(ケ) 電子くじ用番号として、任意に3桁の数字（電子入札の特例の場合に限る。）

入札参加者は、入札書の記載事項を訂正する場合は、当該訂正部分に必ず押印(イ)又は(ウ)で使用する印)をしてください。

エ 作成に当たっての注意事項

入札金額は、物件の借入にあつては、本体価格のほか、輸送費、保険料、関税等納入場所渡しに要する一切の諸経費及び借入れに係る一切の経費、また、業務委託にあつては、業務に係る一切の諸経費を含め入札金額を見積もるものとします。

また、前金払いの有無、前金払いの割合又は金額、部分払いの有無、支払回数等の契約条件に基づき十分考慮して入札金額を見積もってください。

なお、落札価格の決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額をもって落札価格としますので、入札参加者は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もる金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載してください。

また、契約種別が総価契約のもの及び月額で入札するものにあつては、入札書に記載された金

額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額に1円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てるものとします。

(2) 入札書の提出

入札参加者は、予算執行者が入札公告で指定する方法により、入札書を提出してください。

ア 電子入札による入札書の提出

入札日時までに長野県電子入札システムにより提出してください。

長野県電子入札システムには、サポート可能な時間帯、添付可能なファイル容量の制限等の条件があるため、注意してください。

イ 紙入札による入札書の提出

入札日時に入札会場に出向き、直接提出してください。ただし、入札日時に入札会場に出向くことができない場合は、入札書を封かんし、封筒の表面に、開札日、発注件名及び入札者の氏名（法人の場合は、商号又は名称）を記載のうえ、入札公告に示す入札日時までに提出してください。

入札参加者は、入札公告に記載がある場合に限り、入札書を郵送により提出することができます。郵送により提出する場合は二重封筒とし、入札書の中封筒に入れて密封の上、当該中封筒の表面には、開札日、発注件名及び入札者の氏名（法人の場合は、商号又は名称）を記載し、外封筒の表面には、「何月何日開札 [発注件名] の入札書在中」と記載して、裏面には、入札者の氏名（法人の場合は、商号又は名称）及び担当者名並びに担当者連絡先（電話番号・FAX番号）を記載して入札日までに到達するよう提出してください。

ウ 留意事項

上記以外の方法による入札書の提出については受理しません。

(3) 入札における留意事項

ア 電子入札の特例

電子入札であっても、以下の事由に該当する者については、あらかじめ予算執行者の承認を得た場合は、紙により、入札書の事前提出（郵送又は持参に限る。以下同じ。）を行うことができます。

- ・電子証明書（ICカード）の新規取得、失効又は破損による再取得手続き中の場合
- ・パソコンや通信環境の障害により、長野県電子入札システムで入札書の提出ができない場合
- ・その他やむを得ないと認める場合

承認を希望する者は、入札公告に示す入札申込書等提出期限までに事前提出承認依頼書（要領様式第9号）を提出してください。承認については、事前提出回答書（要領様式第10号）によりファックス又は電子メールで連絡します。

承認を得て入札書の事前提出を行う場合は、郵送にあつては入札日まで、持参にあつては入札日時までに本件発注に係る照会先に入札書が到達するようにしてください。

なお、提出については、前号イに定めるとおりとします。

イ 紙入札の場合の会場提出に係る留意事項

入札参加者は、入札に当たり次のものを持参してください。

- 1回目の入札書
- 再度入札用の入札書（2回目及び3回目用の2枚）
- 見積書（「10 随意契約の実施」用の3枚、様式は「入札書」を「見積書」と訂正し、訂正印を押して使用してください。）
- 印鑑
- 身分証明書（運転免許証、社員証等）
- 委任状（代理人が入札する場合）
- 入札保証金を現金で納付した場合は、その領収書

入札参加者は、入札開始後においては、入札場に入場することができません。

入札参加者は、その提出した入札書の引き替え、変更又は取り消しをすることができません。

入札参加者は、特にやむを得ない事情があると認められる場合のほか、入札が終了するまで入札場を退場することはできません。

入札場において、以下に該当する者は当該入札場から退去していただきます。

- ・公正な競争の執行を妨げ、又は妨げようとした者
- ・公正な価格を害し、又は不正の利益を得るための協定をした者

(4) 開札

開札は、入札公告に示す日時、場所において行うものとし、電子入札の場合は、長野県電子入札システムにより、紙入札の場合は、入札書を開披して、落札者を決定します。なお、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10第2項及び最低制限価格制度実施要綱に規定する最低制限価格（以下「最低制限価格」という。）を設定している案件については、「15 最低制限価格制度の設定について」も併せて確認してください。

ア 電子入札の開札は入札参加者の立ち会いを求めないこととし、予算執行者は入札執行事務に関係のない職員を立ち合わせます。ただし、事前提出による入札書の提出が無い時は、入札執行事務に関係のない職員の立ち会いは不要とすることがあります。

紙により事前提出された入札書がある場合、11第1項各号のいずれかに該当し無効となった入札書を除き、入札執行事務担当者が入札金額及び電子くじ番号を長野県電子入札システムに入力した後、開札を行います。

イ 紙入札の開札は入札参加者の立ち会いのもと行います。ただし、入札参加者以外の者の立ち入りは、予算執行者が、公正な入札事務の執行を阻害するおそれがないとして特に認めた者に限るものとし、この場合にあっても、入札事務の執行を阻害したと認めた場合は、この者を開札会場から退場させることがあります。

予算執行者は、入札参加者で立ち会わない者がいるときは、入札執行事務に関係のない職員を立ち合わせるものとします。

8 入札の取り止め等

予算執行者は、次の各号の一に該当する場合は、当該入札参加者を入札に参加させず、又は当該入札を延期し、若しくは取り止めることがあります。

延期や取り止めについては、長野県公式ホームページに掲載します。

- (1) 入札参加者が談合し、又は不穏の行動をなす等により競争入札が公正に執行することができないと認められるとき。
- (2) 談合の事実は確認されないが、競争入札が公正に執行されないおそれがあり、入札の透明性、公平性を確保する必要があると認められるとき。
- (3) 入札公告等に不備があり、入札参加者の公正な入札が行われないと認められるとき。

ただし、不備が軽微なものであり、原則として、次に掲げる項目をすべて満たす場合は、入札公告に示す回答の最終期限までに長野県公式ホームページに不備の訂正を掲載し、入札を継続できるものとします。

- ア 不備が入札参加資格に関するものでないもの
- イ 不備が入札参加資格要件審査書類に関するものでないもの
- ウ 不備の訂正により入札参加者の見積金額が変わるものでないもの
- エ 不備の訂正により入札公告に示す入札日時が変わるものでないもの

- (4) 入札参加者が実質支配会社（親会社と子会社、一方の会社の役員が他方の会社の役員を兼ねている場合、又は事業協同組合若しくは共同企業体とその構成員）であると認められるとき。
- (5) 入札等の執行に際して、長野県電子入札システムに係る障害、天災又はその他やむを得ない事由が生じたとき。

9 再度入札

- (1) 電子入札の場合、開札した場合において、予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、再度の入札を行います。

再度入札における入札書の受付期間及び開札日時は、予算執行者が別途通知します。再々度の入札を行う場合も同様とします。

- (2) 紙入札の場合、開札した場合において、予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、直ちに再度の入札を行います。開札に立ち会うことができない入札参加者は、再度以降の入札を辞退したものとみなします。

ただし、入札参加者がひとりも開札に立ち会っていない場合は、別途通知する日時において再度入札を行います。

再度の入札の受付期間及び開札日時は、予算執行者が別途通知します。再々度の入札を行う場合も同様とします。

また、地方公共団体の物品等又は特定役務の調達手続きの特例を定める政令（平成7年政令第372号）の適用を受ける案件に係る再度の入札は、入札参加者のすべてが立ち会っている場合は直ちに、その他の場合は別途通知する日時において再度入札を行います。

- (3) 再度の入札をしてもなお予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、また同様とします。
- (4) 再度及び再々度の入札をした場合において、予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、「10 随意契約の実施」により見積書の徴取を行います。

10 随意契約の実施

再度及び再々度の入札をした場合において、予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、最低価格の入札者（複数単価契約にあつては、各単価に予定数量を乗じて得た金額の合計額が最低価格の入札者。以下見積においても同様とする。）から見積書の徴取を行います。

- (1) 電子入札の場合、見積書の徴取日時は、予算執行者が別途通知します。
- (2) 紙入札の場合、見積書の徴取は、最低価格の入札者（同額で2者以上の場合はその全員）が立ち会っている場合は直ちに、その他の場合は別途通知します。
- (3) 見積書の徴取をしてもなお予定価格の制限に達した見積がないときは、2回目の見積書の徴取を行います。
- (4) 2回目の見積書の徴取をしてもなお予定価格の制限に達した見積がないときは、同様に3回目の見積書の徴取を行うものとし、予定価格の制限に達した見積がないときは、不落とします。

11 無効の入札書

次の各号の一に該当する入札書は、これを無効とします。

- (1) 入札公告に示す入札参加資格要件審査書類を提出しない者の提出した入札書
- (2) 入札公告に示す入札参加資格要件の審査のために予算執行者が行う指示に従わない者の提出した入札書
- (3) 入札公告等に示した競争に参加する者に必要な資格のない者の提出した入札書
- (4) 同一人が入札した2通以上の入札書全部
- (5) 入札人が協定して入札した入札書
- (6) 発注件名がない又は重大な誤りのある入札書
- (7) 入札金額のない又は記載が不明確な入札書
- (8) 記載した入札額と内訳金額の合計額が異なっている入札書
- (9) 代表者が入札する場合は、法人の商号又は名称及び代表者の氏名（個人の場合は、本人の氏名）及び押印のない又は判然としない入札書（紙の入札書の場合）
- (10) 7(1)ウ(ウ)に定めている代理人が入札する場合は、法人の商号又は名称（個人の場合は、本人（委任者）の氏名）、代理人の氏名及び押印のない又は判然としない入札書（紙の入札書の場合）
- (11) 日付がない又は当該案件の公告日から開札日までの期間以外の日付が記載された入札書
- (12) 入札金額の記載を訂正した者でその訂正について押印のない入札書（紙の入札書の場合）
- (13) 納付した入札保証金等の額が6(4)による入札保証金に達しない場合の当該入札書

- (14) 入札公告等において示した入札書の提出期限までに到達しなかった入札書
 - (15) 入札公告等において求められた経済上及び技術上の要件がある場合において、指定した期限までに要件等が認められなかった者の提出した入札書
 - (16) 実質支配会社（親会社と子会社、一方の会社の役員が他方の会社の役員を兼ねている場合、又は事業協同組合若しくは共同企業体とその構成員）が同時入札した全ての入札書
 - (17) 提出された電子入札書等からウイルスが発見された電子入札書
 - (18) その他入札に関する条件に違反した入札書
- 2 前項に掲げる入札書を提出した者は、9に定める再度入札に参加することができません。再々度入札についても同様です。

12 落札者の決定

- (1) 落札者は、契約の種別により次のとおり決定します。
 - ア 総価契約及び単価契約
有効な入札書を提出した者であって、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって申込みをした者を落札者とします。
 - イ 複数単価契約
有効な入札書を提出した者であって、次の各号を同時に満たす申し込みをした者を落札者とします。
 - (ア) すべての単価が予定価格の制限の範囲内であること。
 - (イ) 各単価に予定数量を乗じて得た金額の合計額が最低であること。
(例えば、各単価に予定数量を乗じて得た金額の合計額が最低の者であっても、単価のうちの一つでも予定価格を超えていた場合は、2つの要件を満たした者はいないことから、再度の入札となります。)
- (2) 落札となるべき同価の入札をした者が二人以上あるときは、くじで落札者を決定するものとします。なお、くじは辞退することができないものとします。
 - ア 電子入札においては、電子くじにより決定するものとし、紙により事前提出された入札書にあっては、入札書に記載された電子くじ番号（記載がない場合は「999」とします。）により行います。
 - イ 紙入札においては、直ちに当該入札者がくじを引き、落札者を決定します。ただし、同価の入札をした者のうち、出席しない者又はくじを引かない者がいるときは、入札執行事務に関係のない職員が、これに代わってくじを引き、落札者を決定するものとします。
開札時に落札者を決定したときは、その場で落札者の決定を告げます。
- (3) 落札者となるべき者の申込みに係る価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって申込みをした他の者のうち最低の価格をもって申込みをした者を落札者とすることがあります。
- (4) (3)の規定に基づく審査のために必要と認める場合は、入札参加者に対し資料の提出を求めることができます。
- (5) すべての案件について入札経過を長野県公式ホームページに掲載します。
- (6) 落札者を決定したときは、落札者に通知します。
- (7) 落札者は、指定の期日までに契約書の取りかわしをしないときは、任意の様式により「契約を締結しない旨」を申し出るものとし、予算執行者は、当該申し出を受領したときは、落札の決定を取り消すものとします。

13 契約保証金

契約保証金とは、落札者が契約の履行に当たりあらかじめ長野県に納付する保証金をいい、契約上の義務を履行しないときに、納付した保証金は県に帰属します。

- (1) 落札者は、契約の締結と同時に契約保証金又は契約保証金に代わる担保を納付しなければなりません。ただし、次の各号の一に該当するときは、契約保証金の納付を免除します。
 - ア 落札者が保険会社との間に県を被保険者とする履行保証保険契約を締結し、当該保証保険契約書を提出したとき。
 - イ 落札者が過去2年間に国又は地方公共団体と、種類及び規模をほぼ同じくする契約を2回以上誠実に履行した実績を有する者であり、かつ、当該契約を確実に履行するものと予算執行者が認めたとき。
 - ウ 落札価格が100万円未満であり、落札者が契約を確実に履行するものと予算執行者が認めたとき。
- (2) (1)の契約保証金に代わる担保の種類及び価値は、別表に掲げるとおりとします。
- (3) (1)の契約保証金の額又は担保の価額は、契約の種別により次の金額の100分の10に相当する金額以上とします。

ア 総価契約	落札価格（税込み）
イ 単価契約	落札価格（単価）（税込み）に（年間）予定数量を乗じて得た金額
ウ 複数単価契約	各落札価格（単価）（税込み）に（年間）予定数量を乗じて得た金額の合計額
- (4) 契約保証金等の納付方法は、6の(5)のア及びイの定めを準用します。
- (5) 落札者が納付した契約保証金等は、これを納付した者がその契約上の義務を履行しないときは、県に帰属するものとします。
- (6) 落札者が納付した契約保証金等は、この契約による債務の履行が完了したとき、又は、返還する事由が生じたときは、これを還付します。
- (7) 契約保証金には、利子を付しません。
- (8) 契約保証金の納付を免除された者が契約上の義務を履行しないときは、免除された金額に相当する金額を違約金として納付するものとします。

14 契約の締結

- (1) 入札公告に示す契約書（案）のとおりとします。
- (2) 落札者は、落札した日の翌日から起算して7日以内（休日を含まない。なお、落札者が遠隔地にある等特別の事情があるときは、別途指定する期日まで）に契約を締結しなければなりません。
- (3) 落札決定と並行して、落札者に電子契約サービスを利用して電子契約を締結するか否かの希望の確認を行います。落札者は電子契約による契約の締結を希望する場合、希望を回答した日の翌日までに、予算執行者あて電子契約同意書兼メールアドレス確認書を提出するものとします。
- (4) 紙による契約書の場合、契約書は、まず、落札者が契約書に記名して押印し、さらに予算執行者が当該契約書の送付を受けてこれに記名して押印するものとします。なお、予算執行者が落札者とともに契約書に記名して押印しなければ本契約は確定しません。
- (5) 電子契約を締結する場合、予算執行者は、落札者に電子契約サービスを利用して電子契約書の内容の確認依頼を行い、落札者は、電子契約サービスで内容を確認して問題がなければ同意を行うものとします。落札者が同意すると、予算執行者あてメールが送信されるので、内容を確認して同意することにより電子契約が確定します。
- (6) 落札者は、契約の締結に当たって、消費税にかかる課税事業者又は免税事業者である旨の届出を提出しなければなりません。ただし、届出が既に提出されているため必要がないと認められた場合はこの限りではありません。

15 最低制限価格制度の設定について

最低制限価格を設定している場合は、入札公告に示し、次の各号に定めるとおりとします。

- (1) 最低制限価格を下回る入札を行った者については、「9 再度入札」に規定する再度以降の入札には参加できないものとします。
- (2) 「10 随意契約の実施」の規定による、見積書の徴取は、最低価格の入札者（最低制限価格を下回る入札を行った者を除く。）から行います。
- (3) 最低制限価格を下回る入札を行った者は、予定価格の制限の範囲内で最低価格の入札者であっても、落札者とはなりません。

16 入札参加資格審査に関する事項

入札参加資格に関する事項の照会先

- (1) 郵便番号 380-8570
- (2) 所在地 長野市大字南長野字幅下692-2
- (3) 機関名 長野県会計局契約・検査課
- (4) 電話番号 026-235-7079

17 その他

- (1) この入札説明書に定めのない事項は、政府調達に関する協定（平成7年条約第23号）、地方自治法（昭和22年法律第67号）、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）、地方公共団体の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令（平成7年政令第372号）、財務規則（昭和42年規則第2号）の規定によります。
- (2) 入札公告に記載がある場合は、賃金実態調査の対象となることがあります。対象となった場合には、業務に従事する従業員の賃金・手当等に関して調査票記入のご協力をお願いしますので、ご了承の上、入札に参加するようお願いいたします。

別表 入札保証金又は契約保証金に代わる担保

区分	種類	価額
ア	国債又は地方債	債券金額
イ	特別の法律による法人の発行する債券	額面金額又は登録金額（発行価額が額面金額又は登録金額と異なるときは、発行価額）の8割に相当する金額
ウ	金融機関の引受け、保証又は裏書のある手形	手形金額又は保証する金額（当該手形の満期の日が当該納入期限日の翌日以後の日であるときは、当該納入期限の翌日から手形の満期の日までの期間に応じて当該手形金額を一般市場における手形の割引率により割り引いた金額又は当該割り引いた金額のうち保証する金額に应ずる金額）
エ	金融機関の保証する小切手	金融機関の保証する金額
オ	金融機関の保証	金融機関の保証する金額